

# 牧羊ひろば



黒磯教会 教会学校

## ●はじめに

黒磯教会は栃木県那須塩原市にあり、二〇二三年に創立70年を迎えます。私たちの教会学校の働きについての報告、お証しをさせていただきます。

## ●二〇一五年以前

当教会では、一九六〇年から教会学校の働きが始まりました。六〇年代後半から教区の夏期バイブル・キャンプも当教会の旧会堂をキャンプ場として毎年、開かれていたときもありました。キャンプには当時の関東北教区の各教会からも多くの子どもたちが集い、キャンプで信仰の決心が与えられ、受洗する子どもたちも起こされていきました。

教会学校の働きはCS教師、教会員の様々な賜物が生かされながら様々な形で代々引き継がれ、二〇一〇年代

前半には、教会員のご自宅や地域の公民館をお借りして分校の働きも進められていきました。

二〇一五年から、協力教会の宇都宮共同教会の牧師夫妻や教会員の皆さんと共に、夏季合同キャンプも行われており、二〇一六年、筆者（辻林）が黒磯教会に赴任した後も継続されています。



協力教会合同サマーキャンプ

## ●毎週の教会学校の礼拝を継続

しかし、一〇年代半ばから少子化や様々な要因が重なり、教会学校に集う生徒の数は減少傾向にありました。部活等のために、日曜日の教会学校の礼拝に生徒が一人も来ないときもありました。しかし、月一回開いている教師会の中で「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしつかりやりなさい。」(Ⅱテモテ4・2)の聖句が示されました。話し合い、生徒が来なくても毎週の礼拝をささげましょう、と励まし合い祈り合って、続けてきました。



旧会堂での最後の礼拝後

## ●「那須、再び!」、黒磯での再会

新会堂(現会堂)建築計画が進み、会堂(旧会堂)を解体することになりました。旧会堂がキャンプ場として使われていた時代にバイブル・キャンプに参加され、救いの恵みにあずかった東北教区、関東教区の兄弟から、「会堂がなくなる前に、もう一度、見ておきたい」という声があがりました。

それに応えて、東北教区の先生方が、「もう一度、黒磯教会に集まり、主を賛美し、キャンプで受けた恵みを分かち合おう!」と「那須、再び!」と銘打って集会を計画し、兄弟に呼びかけてくださいました。

二〇一八年3月、東北、関東教区の教会の牧師、教会員29名が黒



那須、再び!

磯教会礼拝堂に集い、共に主を賛美し、かつてのキャンプの思い出や恵みを証しました。とても楽しく、喜びと感謝にあふれた集会となりました。

教会学校の働きの大切さ、バイブル・キャンプの恵みの素晴らしさを新たに覚え、分かち合うときとなりました。

## ●ジョイナス

### 子ども会を始める

二〇一八年度、新会

堂建築工事の開始に伴い、教会学校も仮会堂や貸しルームで、礼拝やお楽しみ会を行いました。それを機に教会学校の名称を「ジョイナス」に改めました。「ジョイ(喜び)」と「那須」、そして、英語の Join us! (仲間になら



新年の「もちたべたいかい」

う、一緒にしよう)を掛けた名前です。

そして、月一回、子どもたちが集いやすい午後1時に「ジョイナス子ども会」として第一部が礼拝、その後に第二部としてお楽しみ会を行うことにしました。2月にチョコレート作り、春にサツマイモの苗植え、夏の花火大会、秋にイモ掘り等、季節に合わせた行事を毎月行いました。生徒や近隣の多くの子どもたちも喜んで集い、案内チラシをお友達に渡したり、誘ったりするようになりました。父兄も協力して下さいました。

### ●いつしよに集まることができなくても

二〇二〇年春、コロナ禍により4月12日イースターから5月31日ペンテコステの日まで、ジョイナスの礼拝は休会となりました。

主日礼拝をネット配信で行うようになったことをきっかけに、礼拝や集会に来ていた子どもたちが視聴してくれることを願って、紙芝居を教師が朗読してネット配信を始めました。

## ●ジョイナス再開

6月から主日の朝に会堂に集まり、ジョイナスの礼拝をささげました。久しぶりの再会を、CS教師、子どもたちと共に喜びました。

密を避け、換気を充分にして集会や行事も再開しました。毎年、夏休みに行っていた一泊二日のサマーキャン



別荘でのお楽しみ会

写真を撮るときだけ、マスクをはずして取りました。  
写真撮影前後はマスクをつけています。

プ（夏季合同キャンプ）は中止し、代わりに日帰りの遠足に出かけました。そのときに教会員所有の山の中の別荘をお借りし、ゲーム大会も行いました。  
秋のイモ掘りやジョイナス・クリスマス会も行うことができました。



秋のイモ掘り会

## ●新たなチャレンジ

部活等で、主日の午前9時からのジョイナス礼拝に出席できない子どもたちが何人かいました。それで教師会で話し合い、二〇二〇年12月から教会の集会や行事があるとき以外は、毎週午後一時から礼拝を始めることにしました。このことによって一人でも多くの子どもたちが



ジョイナス・クリスマス会

礼拝に集うことができるように、と願っています。

月一度の「ジョイナス子ども会」もいろいろ知恵を出し合って、取り組んでいきたいと思っています。

CS教師の兄弟がそれぞれ忙しい中、喜んで奉仕してくださっていることに感謝しております。

コロナ禍以降、毎主日のジョイナス礼拝の出席者は少なくなっていますが、一回ごとの礼拝、集会を大切に、生徒一人ひとりのためにとりなし、祈ってまいります。

「子どもたちを、わたしのところに来させなさい」(マルコ10・14)。主イエスは、今も子どもたちを招いておられます。これからも子どもたちの救霊のために労を惜しまず、奉仕させていただきたいとCS教師、教会員一同、祈り願っております。続いてお祈りください。

(辻林和己)